

国語 第2学年 組み立てを考えて、お話を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第2学年下巻に載っている書くことの教材。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（12月）による。お話を考えるもとにする絵は教科書に載っているの
で、どの絵を使うかは使う教科書で確かめる。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（B(1)イ・〔知識及び技能〕(1)カ）と言語活動（B(2)ウ）を扱う、お話を書く単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、絵から登場人物と出来事を想像し、出来事を一つずつカードに書いて、「はじめ（だれが・どこで）」「中（どんなことが起こって、どうしたか）」「おわり（さいごにどうなったか）」の順に並べて組み立てを考えられる。組み立てメモを見ながら、「だれが」「どうした」がそろった文でお話を書き、友達と読み合って、おもしろいところや言葉の使い方を伝えられるようになる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)イ	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)エ	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)オ	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(2)ウ	ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

文の中における主語と述語との関係に気付く（(1)カ）。絵から想像を広げて出来事を考え、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って「はじめ・中・おわり」の組み立てを考えて、お話を書く（B(1)ア・イ）。言葉がもつよさを感じ、書いたお話を進んで読み合い、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気付いている。（(1)カ）	①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ）	①「はじめ・中・おわり」の組み立てを粘り強く考え、学習の見通しをもって、お話を書こうとしている。

単元の流れ

全10時間（書くこと10時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（2年）が、この単元を書くこと10時間を配当している（12月）。次ごとの内訳（1・7・2）はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領は第1学年及び第2学年の書くことに年間100単位時間程度を配当するとしている（第3の1(5)）。国語の標準授業時数は第2学年で年間315単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○これまでに読んだお話や好きなお話を出し合い、お話には始まりと出来事と終わりがあることを思い出す。 ○学習課題「絵からお話を考え、組み立てを考えて書き、読み合おう」を立て、学習計画を立てる。	態①（発言・観察）
第2次	2	○教科書の絵（先生が教科書で示す）から一つ選び、登場人物と、どんな出来事が起こりそうかを書き出す。	
	3	○選んだ絵から出来事を三つ以上考え、一枚に一つずつ出来事カードに書く。	
	4	○組み立ての例（先生が教科書から示す）を見て、「はじめ」「中」「おわり」にどんなことが書いてあるかを確認する。	
	5 （本時）	○自分の出来事カードを「はじめ・中・おわり」に分けて組み立てメモに並べ、ペアで話して、順序が分かるかを確認合う。	思①（組み立てメモ）
	6	○組み立てメモを見ながら、「はじめ」と「中」を書く。	
	7	○「中」の続きと「おわり」を書く。	思①（下書き）
	8	○声に出して読み返し、「だれが」「どうした」がそろっているかを確認めて直す。題名を付ける。	知①（読み返しカード・清書）
第3次	9	○できたお話を読み合い、おもしろいところや、言葉の使い方で気付いたことを伝え合う。	態①（観察・読み合いカード）
	10	○学習を振り返り、書いたお話を学級の一冊にまとめる。	態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：自分の考えたお話の出来事を「はじめ・中・おわり」に分けて並べ、事柄の順序に沿って組み立てを考えることができる。(B(1)イ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時までに書いた出来事カードを手元に置く。 2 前時に確かめた「はじめ・中・おわり」のやくわりを思い出す。 ○「『はじめ』『中』『おわり』には、それぞれどんなことを書きましたか」 【めあて】お話を「はじめ・中・おわり」に分けて、組み立てメモを作ろう。 〈予想される児童の反応〉 ・「はじめ」は、だれが出てくるか、どこのお話か。 ・「中」は、出来事が起こって、どうしたか。 ・「おわり」は、さいごにどうなったか。	・「はじめ・中・おわり」のやくわりを、色の違う三つの枠で黒板に示す。 ・やくわりの言葉は子どもの言葉で書き、教科書の例の文は書き写さない。
展開 (分)	3 先生が考えたお話の出来事カードを、みんなで「はじめ・中・おわり」に並べる。 ○「このカードは、どこに入りますか。どうしてそう思いますか」 4 自分の出来事カードを組み立てメモに並べる。 ○「『中』で起こったことは、どの順番だとよく分かりますか」 5 ペアで、組み立てメモを見ながらお話を話す。聞いた人は、順番が分かったか、もっと知りたいことは何かを伝える。 6 友達の言葉をいかして、カードを並べかえたり、足したりする。 〈予想される児童の反応〉 ・登場人物が出てくるカードは「はじめ」だ。 ・こまったことが起こるのは「中」。 ・「中」は、こまったことが起こってから、たすけに行く順番がいい。 ・どうして森に行ったのかが分からないと言われたので、カードを一枚足す。 ・「おわり」のカードがないので、さいごにどうなったかを考える。	・先生のお話の例は、教科書の絵とは別の短い話（出来事カード四枚ほど）を先生が作る。 ・カードは一枚に一つの出来事を、「だれが どうした」の形で書かせる。 ・並べられない子には、「いちばん先に起こったことはどれか」と一枚ずつ聞き、指で順にたどらせる。 ・ペアの聞き手は、「わかったこと」「もっと知りたいこと」の二つを言う決まりにする。 ・出来事が少ない子には、「そのあと、どうなったかな」と聞いて一枚足させる。 ・早く終わった子には、「おわり」で登場人物がどんな気持ちになったかを書き足させる。 ・端末を使う場合は、出来事カードを画面の付箋にして動かしてもよい。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	7 組み立てメモを見ながら、自分のお話を小さな声で通して話してみる。 8 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・カードを入れかえたら、お話がつながった。 ・「おわり」を考えたので、早く書きたい。	・二、三人の組み立てメモを大きな画面や黒板で見せ、並べかえてよくなった所を紹介する。 ・振り返りは「ならべかえたり、たしたりしたところ」「つぎの時間に書きたいこと」の二つで書かせる。 ・次時は、組み立てメモを見ながらお話を書くことを伝える。 ◎思① 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（組み立てメモ）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に「はじめ」「中」「おわり」の三つの枠を、右から順に色を変えて縦長に並べ、それぞれのやくわり（だれが・どこで／どんなことが起こって、どうしたか／さいごにどうなったか）を子どもの言葉で書く。三つの枠の中には、先生のお話の出来事カードを並べて貼り、並べかえた所に矢印をかく。その左に、ペアで話す時の聞き方（「わかったこと」「もっと知りたいこと」）。左端に、並べかえてよくなった子の組み立てメモの写しと、振り返りの観点二つ。2年生がこの時期に読める字で書く。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、出来事が一つだけで終わる、または「はじめ」だけで終わる。手当ては、「それから、どうなったかな」と聞いて出来事カードを足させること。二つ目、出来事の順序がばらばらで、前と後が繋がらない。手当ては、カードを並べて指で順にたどらせ、「どうして～したの」と聞いて、間をつなぐカードを足させること（B(1)イ）。三つ目、「おわり」がなく、急に終わる。手当ては、「どうなったら、おしまいにするか」を先に考えさせ、「おわり」の枠を先に埋めてもよいことにすること。四つ目、主語が抜けて、だれがしたのか分からない文が続く。手当ては、読み返しの時に「だれが」に赤、「どうした」に青の線を引かせること（(1)カ）。五つ目、絵にかかれていますことしか書けず、想像が広がらない。手当ては、登場人物に名前を付けさせたり、「このあと、どうなると思う」と聞いたりして、絵にない出来事を足してよいことを伝えること（B(1)ア）。

プリントの案

出来事カード（単元を通して使う）

一枚に一つの出来事を書くカード。上に小さな絵をかく枠、下に「だれが」「どうした」を書く二つの欄。並べかえやすい大きさに、一人に六枚ほど。B(1)イと〔知識及び技能〕(1)カに合わせた。

組み立てメモの台紙

「はじめ（だれが・どこで）」「中（どんなことが起こって、どうしたか）」「おわり（さいごにどうなったか）」の三つの枠に、出来事カードを貼る台紙。黒板の枠と同じ色にする。B(1)イに合わせた。

本時で並べる先生のお話のカード（先生が作る）

教科書の絵とは別の短いお話を、出来事カード四枚ほどに分けた物。黒板用の大きい物と、ペアで並べる小さい物の二種類。

読み返しカード

「だれが、に赤い線を引いた」「どうした、に青い線を引いた」「。を打った」「題名を付けた」の四つにチェックする欄。〔知識及び技能〕(1)カとB(1)エに合わせた。

読み合いカード

読んだお話の題名と書いた人の欄、「おもしろかったところ」「いいなと思ったことば」の二つの欄。B(1)オに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、「書くこと」などの領域の書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第2学年315）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 2年（Excel）「2年下巻」。単元名「組み立てを考えて、お話を書こう」・教材名・書くこと10時間・12月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

